

NRI

未来創発

Dream up the future.

2006年 Vol. 4

NRI だより

2007年3月期 中間

2006年4月1日～2006年9月30日



Dream up the future.

NRI グループは、未来社会を洞察し、
その実現を担う『未来社会創発企業』として、
あくなき挑戦を続けます。

野村総合研究所
Nomura Research Institute



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

株式会社野村総合研究所(以下NRI)の2007年3月期中間のNRIだよりをお送りするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当上期は、企業収益の改善を背景とした設備投資の増加に加え、雇用情勢の改善など、緩やかに景気が拡大しました。情報サービス産業においては、金融サービス業向けを中心に需要拡大が続き、また納期や品質、セキュリティ対策などに対する顧客のニーズはますます厳しくなっております。このような環境のもと、NRIは引き続き事業基盤および営業基盤の強化に努めました。

その結果、当上期の連結業績は売上高1,464億円、営業利益208億円、経常利益224億円、中間純利益134億円となりました。また、中間配当につきましては、期からの予定通り、1株当たり70円としました。

NRIグループでは、コンサルティングからシステム開発・運用処理までの一貫したサービス、「ナビゲーション&ソリューション」を通じて、業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

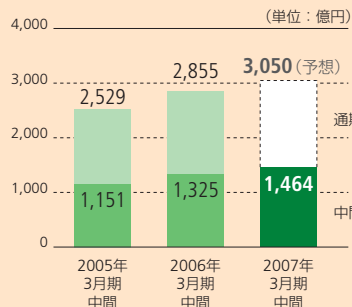
2006年11月
取締役社長 (CEO&COO)

藤沼 彰久

売上高

前年同期比
+10.5%

1,464億円

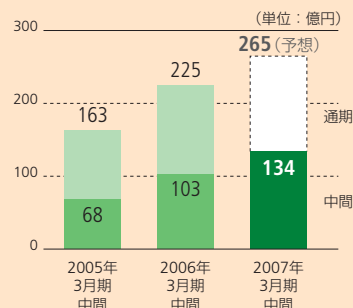


売上高は、証券業向けを中心とした金融サービス業向けの好調および大型開発案件の受注による官公庁向けの増加により、1,464億円と前年同期比10.5%の増収となりました。

中間(当期)純利益

前年同期比
+30.0%

134億円

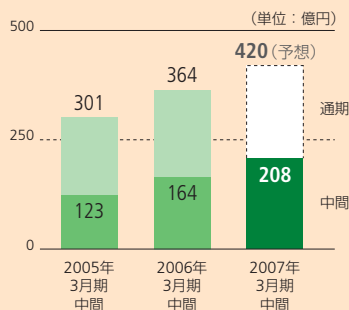


中間純利益は、134億円と前年同期比30.0%の増益となりました。

営業利益

前年同期比
+26.6%

208億円

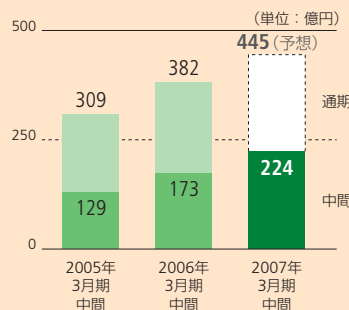


営業利益は、中長期の事業開発に向けた営業活動や人材育成のさらなる強化により、販売費及び一般管理費が増加しましたが、売上原価の増加を抑制した結果、208億円と前年同期比26.6%の増益となりました。

経常利益

前年同期比
+29.4%

224億円

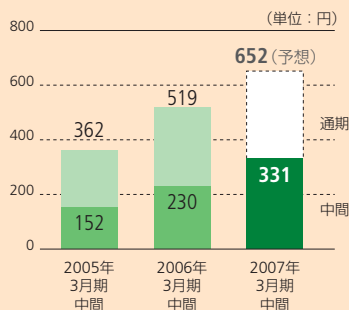


営業利益の増加に加え、受取配当金や持分法による投資利益などの営業外収益の増加により、224億円と前年同期比29.4%の増益となりました。

1株当たり中間(当期)純利益

前年同期比
+101円

331円

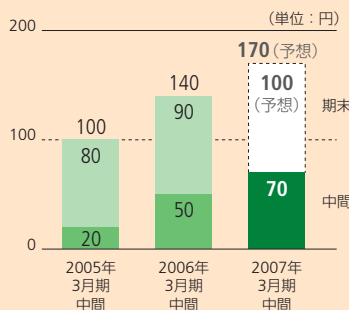


中間純利益の増加にともない、前年同期より101円増加しました。

1株当たり中間配当金

前年同期比
+20円

70円



中間配当金は70円と、前年同期より20円増配しました。

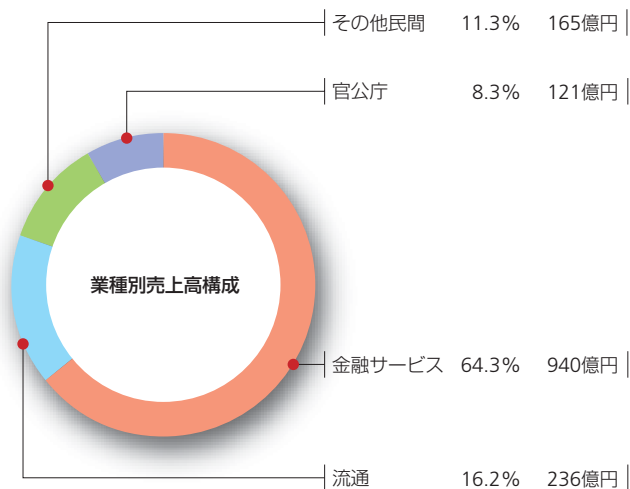
※記載金額は、億円未満(1株当たり中間(当期)純利益/配当金は円未満)を切捨てて表示しております。

※2007年3月期通期予想は、2006年10月に発表したものです。業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。したがって、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高、利益および配当金は当該予想と異なる結果となる可能性があります。

目次	1 株主の皆様へ	5 連結財務諸表	12 株主アンケートより
	1 数字で見るNRI	7 特集「未来創発フォーラム2006」	13 会社データ
	3 業種別およびセグメント別の概況	11 トピックス	

業種別売上高

売上高を業種別に見ると、特に金融サービス業向けが伸長しました。主要顧客やオンライン証券向けなど証券業務関連の開発案件、システム運用、商品販売が増加したほか、保険業向けの開発案件も増加しました。流通業向けは、大型開発案件等の一巡により総じて低調となりましたが、官公庁向けは、大型開発案件の受注にかかる開発・製品販売および商品販売の増加で好調でした。



(注) 記載金額は、億円未満を切捨てて表示しております。

セグメント (サービス) 別売上高 (当中間連結会計期間より、事に変更しています。そのため、)

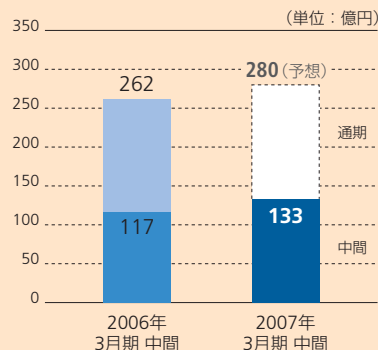
コンサルティングサービス

前年同期比
+13.3%

133億円

調査・研究、経営コンサルティング、システムコンサルティングなどのサービスを提供しています。NRIグループではナレッジ (=知) を核にして、お客様の問題解決と新しいビジネスの創出を手がけています。

コンサルティングサービス売上高



民間企業向け経営コンサルティングが順調に推移したほか、金融サービス業向けのシステムコンサルティングが好調でした。また、アジア、特に中国におけるコンサルティング事業の確立に向けた活動等を推進しました。

この結果、コンサルティングサービスの売上高は、前年同期に比べ13.3%増収の、133億円となりました。

- (注) 1. 記載金額は、億円未満を切捨てて表示しております。
2. 従来、事業区分については、「システムソリューションサービス」と「コ当中間連結会計期間より「コンサルティングサービス」と「ITソリューションのうちシステムコンサルティングを統合し、「コンサルティングサービス」としました。

業の種類別セグメント（サービス）の区分を「コンサルティングサービス」と「ITソリューションサービス」)
前年同期および前期の金額を変更後の事業区分に組替えています。

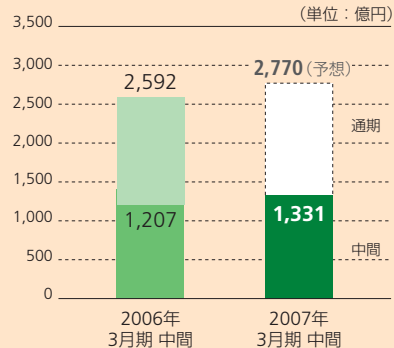
ITソリューションサービス

前年同期比
+10.3%

1,331億円

最先端の情報技術と長年にわたって蓄積してきた業務知識を活用し、お客様の事業・業務改革に関わるIT戦略パートナーとして、情報システムの企画・設計から、開発・運用処理までをおこなっています。

ITソリューションサービス売上高



金融サービス業向けおよび官公庁向けが好調に推移しました。

この結果、ITソリューションサービスの売上高は、前年同期に比べ10.3%増収の、1,331億円となりました。

コンサルティングサービス
133億円 (9.1%)



セグメント
(サービス) 別
売上高構成

ITソリューションサービス
1,331億円 (90.9%)

「コンサルティング・ナレッジサービス」に区分していましたが、サービスの種類、性質、業務形態の類似性を考慮し、事業内容をより適切に反映した情報を提供するために、「ITソリューションサービス」に変更しました。具体的には、「コンサルティング・ナレッジサービス」のうちのリサーチ、経営コンサルティングと、「システムソリューションサービス」としました。また、「システムソリューションサービス」と、「コンサルティング・ナレッジサービス」のうちの資産運用関連サービス等を統合し、「ITソリューションサービス」に含めました。

要約連結損益計算書

単位：百万円

	前中間期 自2005年4月 1日 至2005年9月30日	当中間期 自2006年4月 1日 至2006年9月30日	増減額
売上高	132,502	146,452	+13,949
売上原価	99,110	106,038	+6,928
▶ 売上総利益	33,392	40,413	+7,020
販売費及び一般管理費	16,932	19,573	+2,640
営業利益	16,460	20,840	+4,380
▶ 営業外損益	923	1,654	+731
経常利益	17,383	22,495	+5,111
特別損益	△298	△7	△290
▶ 税金等調整前中間純利益	17,085	22,487	+5,402
法人税等	6,714	9,001	+2,286
中間純利益	10,370	13,486	+3,115

▶ 売上総利益

売上高の増加に加え、プロジェクト管理の強化や生産性および品質を高める活動の推進、当社開発製品の活用、積極的な中国企業への外注などにより売上原価を抑制した結果、404億円と前年同期比70億円の増益となりました。

▶ 営業外損益

受取配当金や持分法による投資利益が大幅に増加したことにより、16億円と前年同期比7億円の増益となりました。

▶ 税金等調整前中間純利益

経常利益の増加に加え、前期にあった投資有価証券評価減等の特別損失の減少により、224億円と前年同期比54億円の増益となりました。

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

2. 要約連結貸借対照表については、当中間期より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」を適用し、表示を変更しています。
なお、前中間期を遡及して修正しています。

要約連結貸借対照表

単位：百万円

	前中間期 (2005年9月30日現在)	当中間期 (2006年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	135,154	146,505
固定資産	185,886	148,867
有形固定資産	37,805	41,169
無形固定資産	21,921	21,057
投資その他の資産	126,158	86,640
資産合計	321,040	295,373
(負債の部)		
流動負債	46,075	62,975
固定負債	35,709	26,520
負債合計	81,784	89,496
(純資産の部) 注2		
株主資本		
資本金	18,600	18,600
資本剰余金	14,800	14,800
利益剰余金	176,788	196,391
自己株式	△973	△47,893
株主資本合計	209,214	181,898
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	30,395	23,585
為替換算調整勘定	△354	290
評価・換算差額等合計	30,041	23,876
新株予約権	-	102
純資産合計	239,255	205,876
負債・純資産合計	321,040	295,373

要約連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	前中間期 自2005年4月 1日 至2005年9月30日	当中間期 自2006年4月 1日 至2006年9月30日	増減額
▶ 営業活動による キャッシュ・フロー	11,473	9,159	△2,314
▶ 投資活動による キャッシュ・フロー	△16,521	△4,361	+12,160
▶ 財務活動による キャッシュ・フロー	△4,684	△3,641	+1,042
現金及び現金同等物に 係る換算差額	90	27	△63
現金及び現金同等物の 増減額 (減少：△)	△9,641	1,183	+10,825
現金及び現金同等物の 期首残高	38,677	50,752	+12,075
現金及び現金同等物の 中間期末残高	29,035	51,936	+22,901

▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

中間純利益は増加しましたが、営業債権の増加等があり、91億円となりました。

▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー

システム運用にかかる機器等の取得や共同利用型システムの開発などによる支出等で、△43億円となりました。

▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払いによる支出等で、△36億円となりました。

「未来創発フォーラム2006」



2010年、
日本の未来を提案します。

ITが変える日本の未来、ひとが変えるITの未来。

2006年9月21日、東京国際フォーラムにて「未来創発フォーラム2006」を開催しました。137名の株主の方をはじめとして、取引先企業などから約700名のお客様にご来場いただき、盛況のうちに終了しました。



「未来創発フォーラム」は、NRIグループのナビゲーション力をお客様や株主をはじめ、広く社会にアピールすること、またフォーラムへの集客活動を通じて、NRIグループの営業活動をより活発に展開することを目的に、年1回開催しています。4回目となる今年は、「ITが変える日本の未来、ひとが変えるITの未来。」をテーマに、2005年9月より実施している「2010年、日本の未来を提案します。」プロジェクトの中間報告の場と位置づけて開催しました。

会場には、キャンペーンを開始してからの1年間を通して、NRIグループが新聞、雑誌、書籍、インターネットなどで発表してきた成果を展示するコーナーを設置。足を止め、NRI学生小論文コンテスト(9頁ご参照)の内容を収録した映像を眺めたり、書籍など当社の発行物を手にとる来場者の姿が数多く見られました。

ITが変える日本の未来

第1部では、「ITが変える日本の未来」をテーマにNRIの2名のコンサルタントが、ITによる2010年代の金融と流通業界における変革の行方について講演しました。

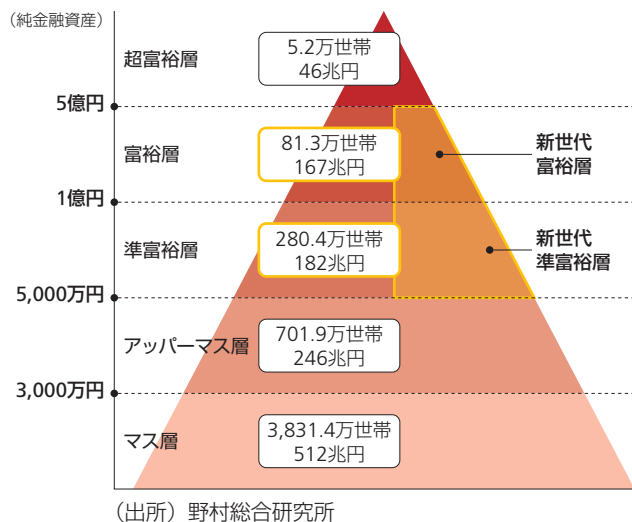
金融コンサルティング部の三浦による「ITが変える2010年の金融」では、以前の「金融ビッグバン」とは異なる、新たな金融再編について説明。資産相続規模の拡大や団塊世代のリタイアによる退職金マーケット、新世代富裕層の台頭といった顧客市場

の変化と規制緩和が新たな金融再編を生むとし、この再編を突破し、勝ち組となるためには、「インフラ」「コンテンツ」「顧客」の3つの要素をどう押さえるか、このためにITをどう活用していくかが重要であると身近な具体例を交えて語りました。また最後には、『消える金融』と『創る金融』というマーケティング戦略を通じて、ITが金融を生活者へ近づける役割を果たす」と、NRIの考える金融の将来像を紹介しました。

引き続き、サービス事業コンサルティング部の日野が、「ITが変える2010年の流通」と題して、NRIの考える流通業界の現状と将来像を発表しました。

独・Metro社の進める実験事例とともに取り上げた「日本版フューチャーストアの実験」では、電子タグを活用した新たな店舗サービスの提供など、実現化の進む未来型店舗の具体例を分かりやすく紹介。小売業の伝統的な成長モデルは限界を迎えつつあるとし、今後はITを活用した**サプライチェーン**最適化が競争のポイントとなり、**GDS**の始動が大きな契機になる可能性を示唆しました。また、今後の流通業界においては、大きな再編がおこなわれ、規模拡大を追求した企業間連携「水平統合」に留まらず、小売業がメーカーや卸売業と連結し、「垂直統合」によって構築された新たなビジネスモデルが台頭する時代になるとの見解を示しました。

純金融資産の保有額別マーケット規模の推計（2005年）



電子タグを活用した
新たな店舗サービス

サプライチェーン

取引先との受発注、資材の調達から在庫管理、製品の発送までの一連の流れ

GDS (Global Data Synchronization)

欧米の民間団体を中心に、世界規模での導入が推進されている、製造、流通における商品情報を標準化するためのシステム仕様

ひとが変えるITの未来

第2部では、慶應義塾大学総合政策学部の國領教授が「2010年、ひとが変えるITの未来」と題して基調講演しました。その後、國領氏に加えて株式会社玉子屋の菅原社長、アイランド株式会社の粟飯原社長をパネリストとしてお迎えし、当社理事長の村上、および事業革新コンサルティング部の齊藤とともにユビキタスネットワーク時代におけるITと人との新たな関わり方について議論。「モチベーション（動機付け）」をキーワードに、特色ある2社の取り組みやIT社会における「人間力」について、様々な角度から活発な意見交換が展開されました。

NRIでは、この「2010年、日本の未来を提案します。」プロジェクトを通じて、多くの組織において、また個人の生き方において、それぞれの未来創発に向けた夢のある目標作りに貢献していきたいと考えています。



「2010年、日本の未来を提案します。」

NRI学生小論文コンテスト



2010年代に社会人となる若者に、2010年代に日本が抱える課題について、自らの問題として考えてもらい、その解決に

向けた提案をしていただく、「2010年の日本と私」と題した小論文コンテストを全国の大学生・高校生を対象に開催しました。

特別審査委員にジャーナリストの池上彰氏をお迎えした審査会を経て、大学生、高校生の部ごとに大賞1点、優秀賞3点、特別審査委員賞1点の入賞論文を決定（応募総数133作品）。9月17日には、入賞者とそのご家族、NRIの審査員など約40名が一堂に会して、和やかな雰囲気の中で表彰式と懇親会が開かれました。

【大賞】

大学生の部

「ユビキタス社会の公共空間 ～誰でも使えるコンピューターの実現～」

秦 健一郎さん、湯本 充洋さん 中央大学法学部4年

高校生の部

「日本の『やる気回復法』提案書」

加藤 麻友子さん 横浜英和女学院高等学校3年

プロジェクトの成果の一部をご紹介します。

未来白書2010

NRIのプロフェッショナルたちが、各々の得意分野をテーマに、2010年以降の日本の課題と企業戦略のあり方について提唱。「未来白書2010」—新天地への飛翔—と題し、2006年7月から8月にかけて、ビジネス誌「週刊東洋経済」に6回にわたり連載しました。



週刊東洋経済 (7/22号)
経営システムコンサルティング部長 増田 有孝



週刊東洋経済 (8/26号)
情報通信コンサルティング一部 安岡 寛道 上級コンサルタント

- ・(7/15号) 水平・垂直統合が進む流通業界の大再編に備えよ
- ・(7/22号) ビジョンの重視・再構築で企業パワーを取り戻せ
- ・(8/5号) 生活の場に溶け込む金融生活者と創りだすサービス
- ・(8/12・19号) 中国、拡大メコン地域、インドなど成長の極を俯瞰したアジア戦略を
- ・(8/26号) 合従連衡進む『企業通貨』活かし方の戦略的判断を
- ・(9/2号) 経済学の教科書にない新たな理論を政策に生かせ

出版物「2010年」シリーズ

2010年に向けたNRIからの提言を単行本にまとめ、順次発行しております。お近くの書店でお求めいただけます。





日本証券アナリスト協会長から記念の楯を受ける専務の奥田

ディスクロージャー優良企業に4年連続で選定される

(2006年9月27日発表)

日本証券アナリスト協会が実施した「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定（平成18年度）」において、コンピュータソフト部門の優良企業に4年連続で選定されました。経営トップがIR活動の重要性を認識していること、業績動向に関わらずIR姿勢が一貫していることなどが高く評価されての受賞となりました。NRIでは、今後も、株主・投資家の皆様への情報開示をより充実させるよう努力していきます。

NRIガーデンネットワーク株式を譲渡 (2006年8月29日発表)

NRIの100%子会社「NRIガーデンネットワーク株式会社」の株式を株式会社アルゴ21に譲渡することを発表しました。NRIガーデンネットワークは、2004年7月に、石油小売業界の業態変化に対応した新しいサービス提供を目指した会社として設立しましたが、さらなる成長のためには、NRIガーデンネットワークの事業戦略の方向性に合致し、シナジー効果を発揮しやすい企業に経営を委ねることが最善であると判断し、この度の株式譲渡を決定しました。

「NRIソリューションズ」

変化が激しく、未来社会の予測が難しいこの時代・・・NRIグループでは、社会をしっかりと見据えながら、未来社会の問題を先取りし、それを解決するソリューションを提供することによって、確かな未来を切り拓いていきたいと考えています。NRIグループのあくなき挑戦「NRIソリューションズ」をホームページ上でご覧ください。(順次公開中)

<http://www.nri.co.jp/nriss/>



最近の公開事例

- | | |
|--|-----------------|
| Vol.9 住友不動産販売のサイトリニューアル | (2006年9月29日 公開) |
| Vol.8 証券ホールセールビジネスのための共同利用型システム「I-STAR」 | (2006年8月14日 公開) |
| Vol.7 金融「福利厚生」の新時代を拓く職域向け金融ポータルサービス「MoneySquare」 | (2006年7月 3日 公開) |

新データセンターの建設 (2006年7月20日着工)

従来から、日吉、横浜、大阪に3つのデータセンターを所有し、様々なお客様のシステム運用サービスを手掛けてきました。当社では、運用ビジネスの強化・拡大を中長期的な事業戦略の1つとして掲げていますが、その足がかりとして横浜市都筑区に4つ目のデータセンターの建設を着工しました。

社会の変化やニーズに柔軟に対応すべく設計された新しいデータセンターは、その耐震性・信頼性・設備保安技術において、国内トップレベルを誇ります。また、建設地域の環境にも配慮し、敷地内には植栽とベンチを設置するなど、地域住民の皆様にも緑豊かなうるおいのある憩いの空間を提供する予定です。



新データセンター外観イメージ

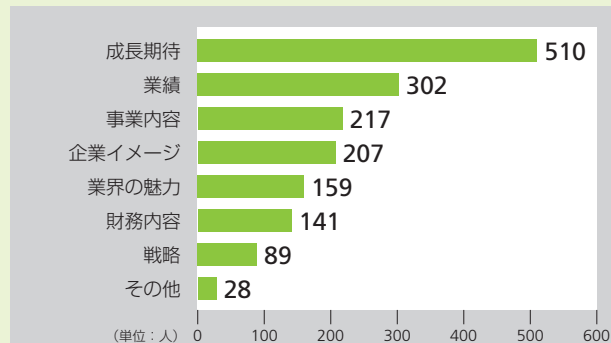


7月におこなわれた地鎮祭の様子

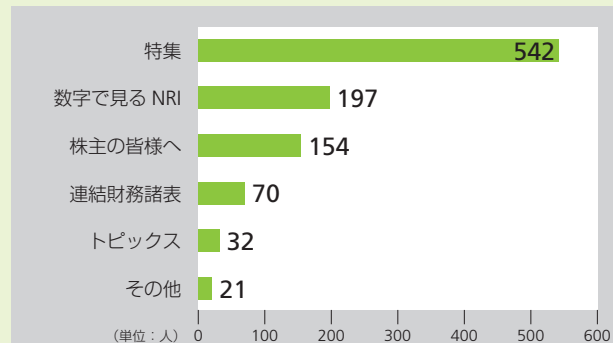
株主アンケートより 有効回答数：874

NRIでは、年2回、「NRIだより」にアンケートを同封し、株主の皆様のご意見を伺っております。「NRIだより」2006年Vol.2に添付したアンケートへも多数のご回答をいただき、ありがとうございました。今後も、業績や事業内容をより分かりやすくお伝えしてまいります。

当社株主をご購入にあたり、NRIのどこに魅力を感じましたか (複数回答)



「NRIだより」で興味を持たれた記事 (複数回答)



会社概要

会社名	株式会社 野村総合研究所
英文社名	Nomura Research Institute, Ltd.
所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6番5号 丸の内北口ビル
沿革	1965年4月 株式会社野村総合研究所 (NRI) 設立 1966年1月 株式会社野村電子計算センター (NCC) 設立 1988年1月 両社が合併
資本金	186億円
代表者	取締役社長 藤沼 彰久
従業員数	4,405名/NRI グループ5,288名

株式の概況

発行可能株式総数	150,000,000 株
発行済株式の総数	45,000,000 株
株主数	9,010 名

大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
野村アセットマネジメント株式会社	8,677	19.28
野村ファシリティーズ株式会社	3,720	8.27
株式会社ジャフコ	3,080	6.84
野村ホールディングス株式会社	2,600	5.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,594	5.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,032	4.52
NRI グループ社員持株会	1,062	2.36
ゴールドマン サックス インターナショナル	594	1.32
高木証券株式会社	550	1.22
ステートストリートバンク アンド トラスト カンパニー 505103	510	1.13

(注) 上記のほか、当社が保有している自己株式が4,358千株あります。

連結子会社

国内子会社

- NRIネットワークコミュニケーションズ株式会社
- NRIラーニングネットワーク株式会社
- NRIガーデンネットワーク株式会社
- NRIセキュアテクノロジーズ株式会社
- NRIサイバーパテント株式会社
- NRIウェブランディア株式会社
- NRIシェアードサービス株式会社
- NRIデータ i テック株式会社
- 株式会社インステクノ

海外子会社

- NRI Holding America Inc.
- Nomura Research Institute America, Inc.
- NRI Pacific Inc.
- NRI Investment America, Inc.
- Nomura Research Institute Europe Limited
- 野村総合研究所 (北京) 有限公司
- 野村総合研究所 (上海) 有限公司
- Nomura Research Institute Hong Kong Limited
- Nomura Research Institute (Singapore) Private Limited

資格取得者

情報処理技術者

システム監査技術者	193名
システムアナリスト	177名
プロジェクトマネージャ	243名
アプリケーションエンジニア	512名
テクニカルエンジニア (ネットワーク)	492名
テクニカルエンジニア (データベース)	244名
テクニカルエンジニア (システム管理)	157名
情報セキュリティアドミニストレータ	245名
上級システムアドミニストレータ	54名

証券アナリスト

175名

役員

取締役および監査役

代表取締役社長	藤沼 彰久
代表取締役 専務執行役員	奥田 齊
代表取締役 専務執行役員	鳴沢 隆
取締役 専務執行役員	川野 忠明
取締役 専務執行役員	今井 久
取締役 常務執行役員	椎野 孝雄
取締役 常務執行役員	室井 雅博
取締役 常務執行役員	廣田 滋
取締役	大野 健
取締役 注1	武田 國男
取締役 注1	南 直哉
監査役（常勤）	後藤 博信
監査役（常勤）	小林 諒一
監査役（常勤）注2	田中 正人
監査役 注2	泉谷 裕
監査役 注2	安田 莊助

執行役員（取締役兼務は除く）

専務執行役員	栗之丸孝義	執行役員	栃澤 正樹
常務執行役員	末永 守	執行役員	山田 澤明
常務執行役員	嶋本 正	執行役員	三ツ木義人
常務執行役員	沢田ミツル	執行役員	宮内 康一
常務執行役員	鈴木 純	執行役員	楠 真
常務執行役員	山田 浩二	執行役員	柳 晴男
常務執行役員	鶴川 寿信	執行役員	栗原 良行
常務執行役員	石橋 慶一	執行役員	堀部 明
常務執行役員	谷川 史郎	執行役員	齊藤 春海
常務執行役員	柳田 雅夫	執行役員	此本 臣吾
常務執行役員	稲月 修	執行役員	板野 泰之
		執行役員	柴内 哲雄
		執行役員	中野 秀昭
		執行役員	山形 高治
		執行役員	東山 茂樹
		執行役員	中村 正秀
		執行役員	佐藤 公治

- (注) 1. 会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

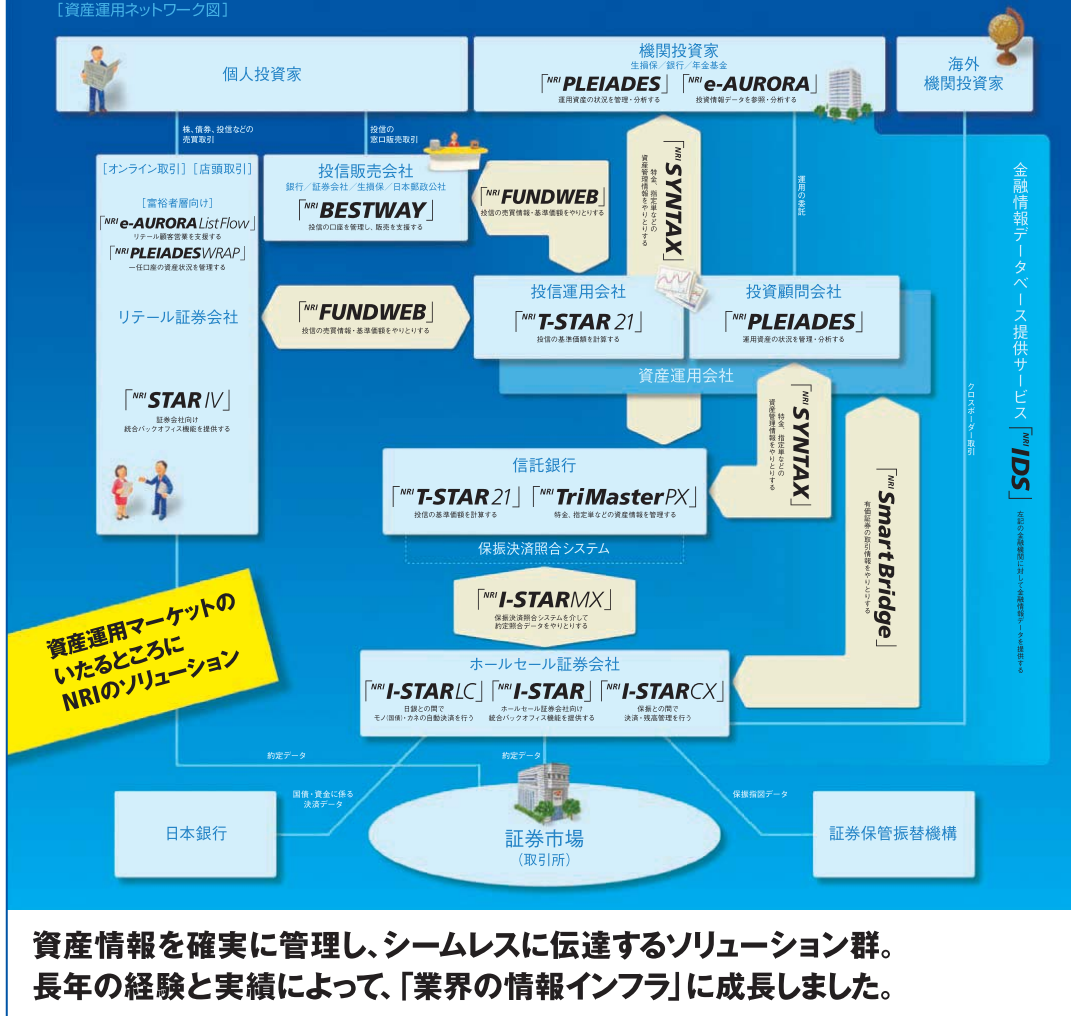
株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (連絡先・照会先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 本店および全国各支店 株主関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行のフリーダイヤル（自動応答）およびインターネットでも24時間承っております。 フリーダイヤル 0120-244-479（本店証券代行部） 0120-684-479（大阪証券代行部） インターネットホームページ http://www.tr.mufig.jp/daikou/
単元株式数	100 株
公告方法	電子公告（当社ホームページ http://www.nri.co.jp/ ） ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

資産運用マーケットの成長とともに。

NRIが提供する資産運用ソリューション群 [共同利用型]

[資産運用ネットワーク図]



資産情報を確実に管理し、シームレスに伝達するソリューション群。
長年の経験と実績によって、「業界の情報インフラ」に成長しました。